

カンボジアスタディツアーに参加して



2018年3月12日~19日

動物病院勤務 小川 奈緒

私は、人と関わることがあまり得意ではなく、今回の参加にあたって暫く悩みました。しかし日本で保護猫ボランティアをしている為ボランティア活動に対しての意欲はあり、様々な経験を積んでもっと成長したいと思い、思い切って参加させて頂きました。

私は動物看護師の仕事をしているので、身近に犬や猫などの動物がたくさんいるカンボジアの子供達にも動物の命の大切さを知ってもらいたいと思い、



村の小学校では「動物病院について」と「よく飼われているペットの種類」についての教科書を作って持って行き、解説をしながら皆に好きな動物の絵を描いてもらう授業をしました

みんな真剣に話を聞いて楽しそうに話をしながら絵を描いてくれました。数ヶ月前から考えて作った教科書も皆が喜んでくれ、嬉しかったです。

カンボジアへ行って感じたことは、貧しいと言われていてもそこに暮らしている人達の心は豊かだということ、幸せの形は、お金で買えるようなものではなく人それぞれ違うということです。日本語学校の子供たちからも元気ももらい、人と関わることも楽しいなと思えました。また皆に会いに行きたいです。

新しい社会を見て 高橋優花

私はカンボジアのスタディツアーに参加して、ボランティア活動は、それぞれのニーズに対応した成果をあげることを目指す活動であるということを感じました。

事前研修の時、私はポー村小学校で何を教えればよいのか、思いつきませんでした。稲川シスターや奈緒ちゃんのアドバイスを受けて、生け花の授業をすると決めました。

今回私が生け花を紹介すると、身の回りにある草木を使って飾るという視点を示すことができます。これは、新たな仕事の一つを紹介することと同じなのだと思います。

実際にポー村小学校を訪れ生け花を実演すると、生徒が興味深く見てくれたことがとてもうれしかったです。この経験から私は、教育というものに対するとらえ方が少し変わりました。教育には、世界の、社会の様々な側面を知るとい側面があります。その基礎にある「当たり前」のことも、教育なしには当たり前にならないのです。「外から帰ってきたら手を洗



う」、小さい時に教えられ、そうしてきました。私は幼いころからいろいろなことを教えられ、体験をしてきたのだと感じました。

この研修に参加する以前は、カンボジアについて地理や歴史の側面だけしか知りませんでした。ましてや現地の人の生活まで想像することはありませんでした。しかしこれまでVIDESが行ってきた活動を見ると目標ははっきりとしています。VIDESの一員として、私に何ができるのか考えることとなりました。前に挙げたボランティアへの違和感を解消していきました。現地で求められている活動でなければ、それは「自己満足」でしかないということです。

この研修で今までとは少し違う側面から社会を見ることができました。そして自分で思っている以上に、誰かの助けになることができるのだと気付きました。これからもできる範囲で、ボランティア活動を続けていきたいと思いました。

2019年3月12日~19日

加藤萌子

私はボランティアに行く前、言葉が通じない国で子供達と仲良くできるのか正直そんな不安がありました。しかし実際に子供達を前にしてみたらそんな不安は余計なものでした。

カンボジアの子達は、会うと必ず笑顔で挨拶をしてくれ、ハイタッチやハグをしてくれて、そんな純粋な子達ばかりでした。そんな素直な子達との関わり、そして共にカンボジアへ行った3人の友人とシスター達の関わりの中で気付かされた事、学んだ事が沢山あります。その一つは自分から心を開く事の大切さです。その行為は相手との仲を深める素晴らしい行為です。なので、私は相手から何かを求めるのではなく、私から積極的にしていく「心を開いていく」ということをこれから意識して行動したいと思っています。

一生忘れたくないそんな素晴らしい体験でした。



須田美優希

私は今回初めて参加し、切り紙を教えました。そこで私が驚いたのは、子供たちの潜在能力の高さです。やったことがなくても少し教えるとその先は自ら考え、様々な形を作り上げていく姿を見て、こんなにも素晴らしい才能や感性を教育の不足によって摘み取ってはならないと強く感じました。

私が大好きなのは、目が合った子供に「おいで」と手招きをするとパッと笑顔になるその瞬間です。

その瞬間は非常にシンプルに「この笑顔のために生きていきたい」と思いました。切り紙を教えただけの私に、子供達は一番大切なことを教えてくれたのです。

私は将来看護師として途上国で働きたいと考えており、春から大学の看護学科に進みます。ここでの貴重な体験をスタートとすることができて本当に良かったです。この研修を支えてくれたすべての方に心から感謝しています。



豊田晏澄

カンボジアでわたしは沢山の可能性をみた。運動が得意な子、発想力のある子、ダンスが上手い子、勉強を頑張りたい子、沢山の可能性が詰まっていた。私は豊かな日本に生まれ、沢山の教育を受けてきた。教育者としての技術はない。ただ、受けてきた教育がある。私たちが彼らにできることは可能性を終わらせないことだと感じた。また、彼らは私たちにいつも真っ直ぐな笑顔を向けてくれた。彼らの笑顔にはきっと辛いことも苦しいことも沢山ある。それでも私達を喜んで迎え入れ、沢山の笑顔と愛を注いでくれる。とても心が豊かなのだと感じた。本当の豊かさとは、幸せとはなんだろうか。お金も大事である。でもそれ以上に大事なことがここには沢山あった。日本に帰ってきた今、自分に何ができるか考えたい。

寝食共にして語り合った全ての人との出会いと沢山の学びに心から感謝する。



大久保結衣

私は今回のカンボジアスタディツアーで物凄くカルチャーショックを受けました。今でもなお、裸足歩き回っている子供たちの多さや虫歯あることが普通の子供たちの姿を見て、私にとっての当たり前とはなんだろうと考えさせられました。

苦しい中でも一生懸命学ぼうとしてる子供たちの目がとてもキラキラしていてその姿がとっても愛おしくて、もっと沢山のことを教えてあげたいと思いました。きっと、彼女たちの今の生活は彼女たちにとっては当たり前のことになりつつあります。だが、その生活は当たり前ではないし、当たり前にはさせてはいけません。

今回のスタディツアーで彼女たちの笑顔や生活を目の当たりにしたこと、今の私にできることはなんだろう、と沢山考えさせられました。また、今こんなにも恵まれた環境で生活できていることに沢山のの人に感謝を伝えたいと思えるきっかけになりました。このスタディツアーはボランティア活動として行かせて頂きましたが、私の方が子供たちから沢山のことを教えてもらった気がします。

